

平成 24 年度

# 病害虫発生予報第 1 号

平成 24 年 4 月 26 日

## 三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

## 目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	10
5. 今月のトピックス（トマト灰色かび病について）	11
6. 気象のデータ	12
7. おしらせ	14

## 1. 向こう 1 か月の予報と対策

### 1) 作物

イネでは、イネミズゾウムシの発生時期はやや遅、発生量は平年並と予想されます。

コムギでは、赤かび病の発生量はやや多と予想されます。開花始めから開花盛期に予防散布してください。開花期以降に降雨が続き、気温が高く推移した場合は追加散布を行ってください。

### 2) 果樹

カンキツでは、かいよう病（中晩柑）、ミカンハダニの発生量はやや多と予想されます。かいよう病（中晩柑）では伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、予防防除に努めてください。ミカンハダニは圃場での発生状況をよく観察し、多発圃場では適切に防除してください。そうか病、かいよう病（温州みかん）の発生量は平年並と予想されます。

ナシでは、黒星病、赤星病、ハダニ類、アブラムシ類の発生量は平年並と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量はやや多と予想されます。圃場やその周辺への飛来に注意してください。

### 3) 茶

チャでは、チャノキイロアザミウマ、クワシロカイガラムシの発生量はやや多と予想されます。チャノキイロアザミウマの発生が多い圃場では、一番茶摘採後の新芽の萌芽～開葉初期に防除してください。クワシロカイガラムシの第 1 世代幼虫孵化最盛期は 5 月第 5 半旬と予想されますので、圃場での発生状況を確認して防除してください。カンザワハダニの発生量は平年並、チャノホソガ、チャノコカクモンハマキの発生量はやや少と予想されます。

### 4) 野菜

イチゴでは、ハダニ類の発生量はやや多と予想されます。気温の上昇とともに増加するため、発生の確認される圃場では注意してください。

## 2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	イネミズゾウムシ	やや遅	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 近年、実害は少ないので、移植後の発生状況に応じて防除してください。</li> <li>2) 常発圃場では、箱施用剤による予防を行ってください。</li> </ol>
コムギ	赤かび病	-	やや多	小	高					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病害虫防除技術情報第1号(4月9日発表)。</li> <li>2) 開花始めから開花盛期に予防散布してください。</li> <li>3) 開花前の薬剤散布は防除効果が劣ります。圃場ごとに出穂および開花状況を把握し、薬剤散布を行ってください。</li> <li>4) 開花期以降に降雨が続き、気温が高く推移した場合は第1回散布の7~10日後に追加散布を行ってください。</li> </ol>
カンキツ	そうか病	-	平年並	小	低					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 県予察圃(御浜町)では、本年の春葉での初発は4月22日(平年4月19日)とやや遅い状況です。</li> <li>2) 発芽期の防除を実施することで、その後の発生を抑えることができます。</li> <li>3) 新葉に病斑が見られる圃場では、その後実果へ感染しますので、幼果期の防除を計画してください。</li> </ol>
	かいよう病	-	温州 平年並 中晩柑 やや多	温州 小 中晩柑 中	温州 低 中晩柑 普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 越冬病斑が見られる圃場では、新葉や幼果へと感染していくので、初期の予防散布がポイントです。</li> <li>2) 越冬病斑が多い圃場では、伝染源となる発病葉及び発病枝は除去し、圃場外で処分してください。</li> <li>3) 3~4月に防除を実施していない圃場では、5月に防除を実施してください。</li> <li>4) 風雨により感染が助長されるので、天候に注意し、予防散布に努めてください。</li> </ol>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
			発生時期	発生量		4月	5月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
ナシ	カンキツ ミカンハダニ	—	やや多	中	普通	成ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 冬期にマシン油乳剤を散布していない圃場では、新梢伸長期に急増することがあるので注意してください。</li> <li>2) 発生量は圃場によるばらつきがあるので、発生状況をよく観察してください。</li> <li>3) 成虫が1葉当たり0.5～1.0頭になったら防除を計画してください。</li> </ul>
	黒星病	—	平年並	小	普通	発病密度				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 昨年の発生が多かった圃場では、天気予報の降雨の情報に注意し、防除適期を逃さないようにしてください。</li> <li>2) 発病が確認されたら追加防除を行ってください。</li> </ul>
	赤星病	—	平年並	小	普通	ビャクシン類の冬胞子発芽				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) カイツカイブキ等の枝葉に生成された病原菌が飛散して、ナシに感染します。</li> <li>2) 病原菌は雨中の風によって飛散し、主に降雨中に感染します。</li> </ul>
	ハダニ類	—	平年並	小	普通	成ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 発生が見られる圃場では、低密度のうちに防除してください。</li> </ul>
	アブラムシ類	—	平年並	小	普通	ナシノアブラムシ				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) アブラムシ類は初期の寄生を見つけることが重要です。</li> <li>2) 寄生葉付近はアリが活発に活動しているので、アブラムシ発見の目安になります。</li> </ul>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
果樹共通	カメムシ類	—	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本年は越冬量が多いと考えられ、気温の上昇とともに圃場によっては多数飛来する可能性があります。</li> <li>2) 圃場への飛来に注意してください。特に、山林に近い圃場や過去に多数飛来があった圃場では注意してください。</li> <li>3) 果樹カメムシ類は、4月はウメ、5月はナシ、ビワ、モモに飛来します。</li> <li>4) 防除は圃場及び圃場周辺（街灯への夜間飛来など）への果樹カメムシ類の飛来を確認して行ってください。</li> </ol>
	カンザワハダニ	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一番茶後に発生が多くなる傾向があります。</li> <li>2) 一部の圃場で孵化が確認されていますが、発生量にばらつきがあるので、発生状況を確認して防除してください。</li> <li>3) 葉裏に生息しているので丁寧に散布しましょう。</li> <li>4) 世代交代が早く、薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同一系統の薬剤の使用は年1回に止めましょう。</li> <li>5) ケナガカブリダニなど天敵が捕食することで密度が抑えられますので、これら天敵への影響が少ない薬剤を使いましょう。</li> </ol>
	チャノホソガ	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幼虫は新葉を巻き（三角巻葉）、この中で加害します。巻葉後は防除効果が低下しますので、孵化直後の幼虫を対象として防除してください。</li> <li>2) フェロモントラップ誘殺状況を病害虫防除所ホームページに掲載しているので、防除時期の参考にしてください。</li> </ol>
チャノキイロアザミウマ	—	やや多	小	低					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新芽の葉柄基部や未展開葉の内側などを吸汁加害します。</li> <li>2) 新芽の伸長と共に発生量が増加します。新芽の萌芽～開葉初期に防除を行いましょう。一斉防除が効果的です。</li> <li>3) 有効積算温度による予測式（四日市市、亀山市、松阪市：4月23日現在）では、第1世代成虫発生盛期は5月第6半旬です。</li> <li>4) チャ以外にも果樹類、サクラ、イヌマキなども発生源となるので、これらの植物が付近にある場合は発生に注意しましょう。</li> </ol>	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	4月	5月			
								下旬	上旬		中旬	下旬
チャ	クワシロカイガラムシ	-	やや多	中	普通				第1世代 成虫密度	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 防除適期は、孵化幼虫が雌成虫の貝殻から出て歩行する時期です。</li> <li>2) 有効積算温度による予測式（四日市市、亀山市、松阪市：4月23日現在）では、今年の第1世代幼虫の孵化最盛期は5月第5半旬です。幼虫孵化最盛期の約3日後が防除適期ですが、圃場により発生時期や発生期間は異なるので、発生状況を確認して防除してください。</li> <li>3) 専用ノズルを使う等、樹幹内に薬液が十分かかるよう散布しましょう。</li> <li>4) 圃場間の拡散を防ぐため、多発圃場の摘採は後回しにしましょう。</li> </ul>		
	チャノコカクモンハマキ	-	やや少	小	低	成虫密度				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 幼虫は孵化数日後に葉を2~3枚綴るようになるので、薬液がかかりにくくなります。孵化直後の若齢幼虫を対象として防除してください。</li> <li>2) 例年、第1世代は5月中~下旬が防除適期です。病害虫防除所ホームページにフェロモントラップ誘殺状況を掲載しているので参考にしてください。</li> </ul>		
イチゴ	ハダニ類	-	やや多	中	普通	成ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 気温の上昇とともに発生が増加します。こまめに圃場を観察し、発生状況を確認してください。</li> <li>2) 薬液がかかりやすくなるよう、不要な下葉を除去し、葉裏にもかかるよう丁寧に散布してください。</li> <li>3) 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。</li> <li>4) 薬剤散布の際は、収穫前日数とともに、天敵やミツバチに対する影響も十分考慮して、薬剤の選択を行なってください。</li> </ul>		

### 3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	やや遅	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月20日発表）によると、気温は低い予想（発生時期-）</p> <p>2) 4月20日現在における有効積算気温（発育零点 13.8）は 14.4 日度（平年 19.5 日度）と少（発生時期+）</p> <p>3) 予察灯（4月第1半旬～第4半旬）では、未飛来（平年4月27日初飛来）と平年並（発生時期±）</p> <p>4) 巡回調査圃場（昨年8月）では、発生圃場率 12.8%（平年 11.8%）とやや多、払い落とし虫数 0.3 頭（平年 1.2 頭）と少（±）</p> <p>考察： これまでの気象条件を重視して発生時期はやや遅、昨年の巡回調査結果から、越冬成虫の予想発生量は平年並と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月20日発表）によると、期間のはじめは平年に比べ晴れの日が少なく、気温は平年並か高い予想（+）</p> <p>2) 一般圃場では、生育進度がやや遅く、開花期もやや遅い見込み（+）</p> <p>考察： 今後の気象条件および一般圃場の状況から、予想発生量はやや多と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月20日発表）によると、気温は低くなく、降水量は少ない予想（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（4月第1～2週）では、全調査圃場で病斑未確認で平年並に少（旧葉発病度平年 0.2）（±）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少（±）</p> <p>考察： 現状の発生量は平年並に少なく、気象要因による増加を考慮しても、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	-	温州 平年並 中晩柑 やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月20日発表）によると、気温は低くなく、降水量は少ない予想（+）</p> <p>2) 県予察圃（中晩柑類 4月17日）では、越冬病斑の発病葉率 18.4%（7年平均 35.7%）と少の傾向（-）</p> <p>3) 巡回調査圃場（4月第1～2週）では、温州みかんでは旧葉発病度 0（平年 0.2）と平年並に少（±）、中晩柑類では旧葉発病度 4.6（平年 2.2）と多（+）（+）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多（概してやや多）（+）</p> <p>考察： 温州みかんでは平年発生は少なく、予想発生量は平年並と考えます。中晩柑類では現状の発生量はやや多と思われる、今後の気象要因が新葉への感染に好適であることから、予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ナシ	ミカンハダニ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月20日発表)によると、気温は低くなく(+)、降水量は少なくない(-)予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(4月中旬)では、100葉当り寄生虫数は、無防除区 86.7頭(平年 79.7頭)と平年並(±)、慣行防除区 1.1頭(平年 0.3頭)とやや多(+)(+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第1~2週)では、旧葉寄生率 9.1%(平年 7.0%)と多、雌成虫寄生頭数 0.40頭/葉(平年 0.26頭/葉)と多(+)</p> <p>4) 一般圃場では、一部多発圃場が散見されるが、発生量は平年並(±)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と思われ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	黒星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月20日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少なくない予想(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第1~2週)では、発病芽率 0%(平年 0%)と平年並に少(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少(±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少なく、気象要因による増加を考慮しても、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	赤星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月20日発表)によると、降水量は少なくない予想(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第1~2週)では、展葉見られず発生は未確認(発生葉率7年平均0%)(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少(±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少なく、気象要因による増加を考慮しても、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月20日発表)によると、気温は低くなく(+)、降水量は少なくない(-)予想(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第1~2週)では、展葉見られず寄生は未確認(寄生葉率7年平均0%)(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少(±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少なく、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	アブラムシ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月20日発表)によると、気温は低くなく(+)、降水量は少なくない(-)予想(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第1~2週)では、寄生枝率 0%(6年平均 0.4%)と平年並に少の傾向(±)</p> <p>3) 一般圃場では、平年並に少で、多くの圃場で寄生は未確認(±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少なく、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹共通	カメムシ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町4月1日~20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ0頭(平年92.0頭)、ツヤアオカメムシ2頭(平年222.2頭)といずれも少 (-)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市4月1日~20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ0頭(平年0.2頭)、ツヤアオカメムシ0頭(平年0.2頭)といずれも平年並 (±)</p> <p>3) 県予察圃フェロモントラップ(4月9~16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)0.5頭(平年10.7頭)と少、中間地(津市白山町二本木)0頭(平年1.6頭)と少、平坦地(松阪市嬉野川北町)0頭(平年0.8頭)と平年並 (-)</p> <p>4) チャバネアオカメムシの越冬量は、1地点当り6.0頭(平年1.1頭)、クサギカメムシの越冬量は、1地点当り79.3頭(平年45.7頭)といずれも多 (+)</p> <p>5) 巡回調査圃場(4月第1~2週)では、飛来は未確認 (±)</p> <p>考察: 現状の予察灯、フェロモントラップへの誘殺は少ない状況ですが、越冬量が多いと考えられ、今後の圃場への飛来数の予想発生量はやや多とします。</p>
	カンザワハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月20日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少ない予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(4月中旬)では、寄生葉率2.0%(平年8.9%)とやや少、寄生頭数0.21頭/葉(平年0.89頭/葉)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第1~2週)では、旧葉寄生率2.1%(平年5.2%)と少、寄生頭数0.03頭/葉(平年0.30頭/葉)と少、発生圃場率60.9%(平年44.3%)と多 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と思われ、引き続き予想発生量は平年並とします。</p>
チャ	チャノホソガ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月20日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少ない予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃では、フェロモントラップへの初飛来は3月18日(9年平均3月18日)と平年並の傾向 (±)</p> <p>3) 県予察圃(4月第1~4半旬)では、フェロモントラップ誘殺数627頭(平年872.9頭)とやや少 (-)</p> <p>4) 巡回調査圃場(4月第1~2週)では、萌芽は少なく、産卵は未確認 (-)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 現状の発生量は少と思われませんが、県予察圃フェロモントラップ誘殺数を重視して、予想発生量はやや少とします。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノキイロアザミウマ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月20日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少なくない予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(4月第1~4半旬)では、吸引粘着トラップ捕殺数 279 頭(平年 170.9 頭)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第1~2週)では、たたき落とし虫数 7.1 頭(平年 1.9 頭)と多、発生圃場率 78.3%(平年 42.6%)と多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と思われ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 有効積算温度による発生消長予測式(四日市市、亀山市、松阪市:4月23日現在)では、第1世代の幼虫孵化最盛期は5月第5半旬(県予察圃の7年平均5月23日)と平年並の傾向 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第1~2週)では、雌成虫寄生株率 17.4%(平年 15.3%)とやや多、発生圃場率 87.0%(平年 58.7%)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は多 (+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と思われ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャノコカクモンハマキ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月20日発表)によると、気温は低くなく、降水量は多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(4月第1~4半旬)では、フェロモントラップ誘殺数 19 頭(平年 63.9 頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第1~2週)では、ハマキムシ類巻葉数 0.1 枚/m<sup>2</sup>(7年平均0.1枚/m<sup>2</sup>)と平年並に少の傾向 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と思われ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
イチゴ	ハダニ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月20日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第1~2週)では、寄生株率 26.3%(8年平均14.9%)、寄生程度 13.0(8年平均9.7)と多の傾向 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、圃場によるばらつきはありますが、発生量はやや多~多(概してやや多) (+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と思われ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

## 4. 予察項目の見方

### 1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6
評価	早	やや早		平年並				やや遅		遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

	平年値 ↓					
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていれればいいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

### 2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

## 5. 今月のトピックス 「トマト灰色かび病について」

### ◆被害の様子◆

灰色かび病は寄生範囲が広く、非常に多くの植物で発生します。野菜類においても、トマトやナス、イチゴ、キュウリ、レタスなどで発生し、本県では特にトマトにおける重要病害です。

本菌は傷口や枯死した部分から侵入しやすく、主に果実や花弁、葉などで発生して灰色のかびを生じます（図 1a、b）。病勢が激しいと株全体が枯死することもあります。また、果実の場合、かびが発生しなくても果実表面に黄白色の円形小斑点（ゴーストスポット）を生じることがあります（図 1c）。

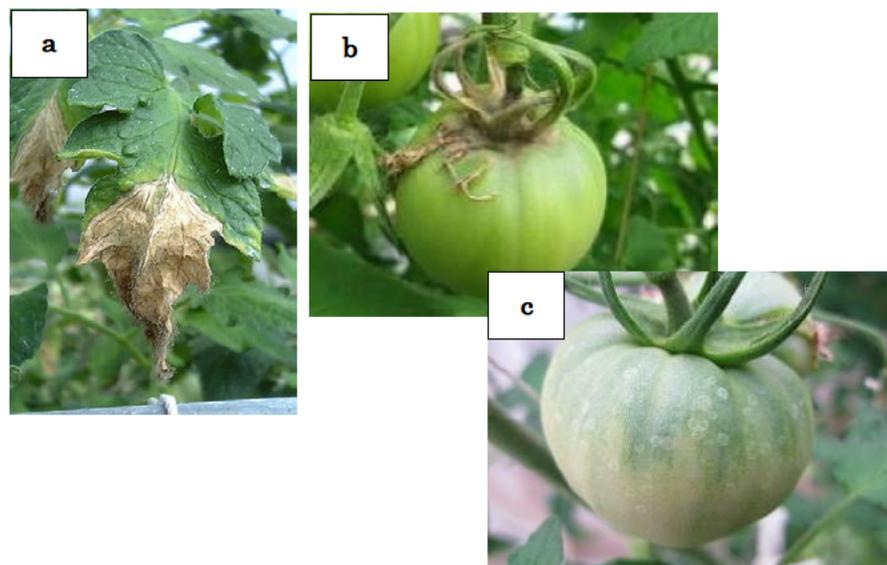


図 1 被害葉および被害果の様子（農業研究所 鈴木啓史氏原図）

### ◆今年の発生状況◆

今年は2月下旬～3月上旬に曇雨天の日が多く、日照不足でハウス内の湿度が上昇したこと、気温が平年より高めに推移したことなどが影響し、発生が

増加しました（図 2）。例年、4～5月（春先）に発生が多くなりますので、今後も引き続き注意が必要です。

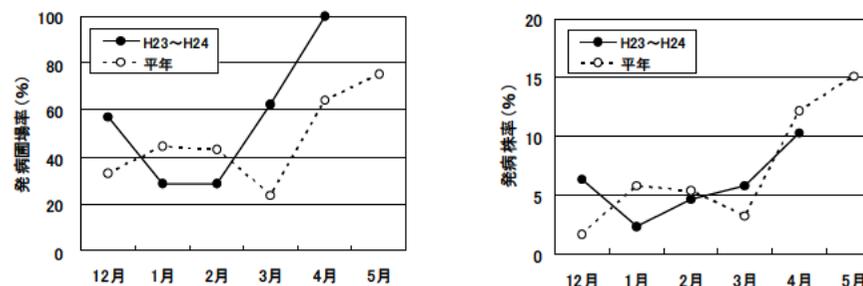


図 2 県内のトマト灰色かび病発生状況の推移(巡回調査結果)

※各圃場 50 株を調査。平年は過去 10 年間の平均値。

### ◆薬剤耐性菌について◆

本病は薬剤耐性菌が発生しやすい病害です。三重県では、毎年春先に現地圃場における薬剤耐性菌の発生状況を調べています。県内のトマト産地では、すでにジカルボキシミド系薬剤やベンズイミダゾール系薬剤に対して、耐性を示す菌株が確認されています。

薬剤耐性菌の発生状況は、地域あるいは圃場によって異なりますので、その懸念がある場合には、普及センターなどの指導機関に相談してください。

### ◆防除のポイント◆

- 1) 栽培管理：本病は、20℃前後の気温と多湿条件で発生しやすいため、ハウス内の温度に注意し、湿度管理に努めてください。
- 2) 圃場衛生：発病した茎葉や果実、枯死葉などは伝染源となります。圃場をよく観察し、こまめに取り除いて圃場外に持ち出し、適切に処分してください。
- 3) 薬剤防除：発病前の予防防除が基本です。また、薬剤耐性菌が生じやすいため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。

## 6. 気象のデータ

### 東海地方1か月予報（平成24年4月20日 名古屋地方気象台発表）

東海地方の向こう1か月は、低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間のはじめは南からの暖かく湿った気流や低気圧の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。その後は高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

1週目 4月21日～27日	気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日が多いですが、期間の中頃には高気圧に覆われて晴れる日もある見込みです。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.0日・4.3日
2週目 4月28日～5月4日	低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わるでしょう。高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	同 2.2日・4.2日
3～4週目 5月5日～18日	低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わるでしょう。高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	同 4.8日・7.7日

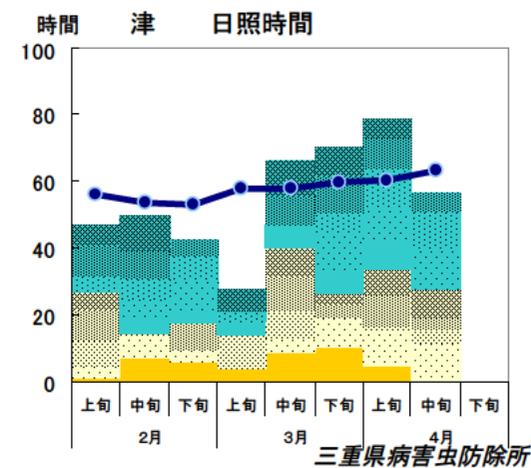
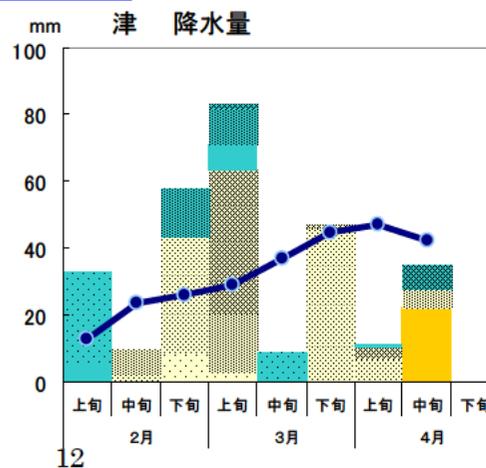
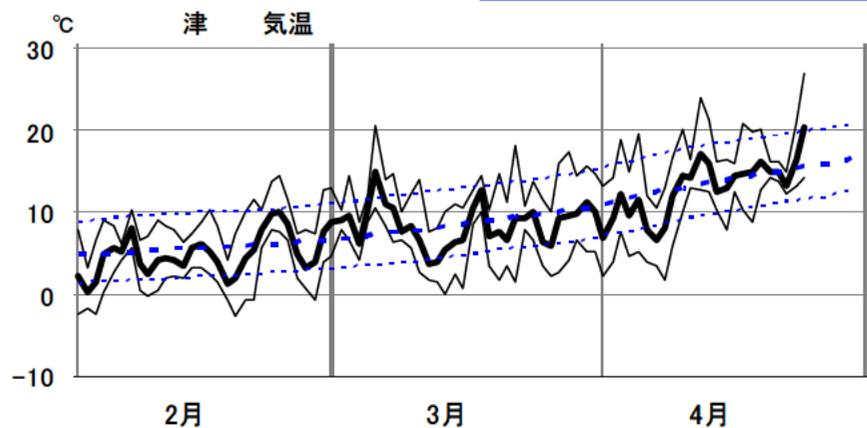
### 東海地方週間天気予報（平成24年4月25日10時30分 名古屋地方気象台発表）

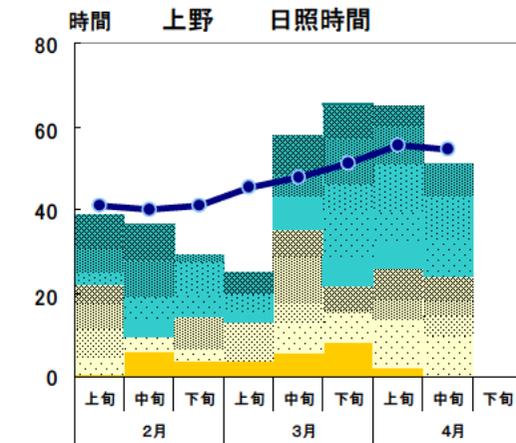
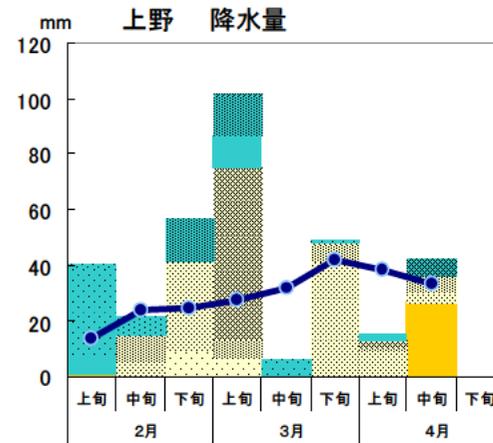
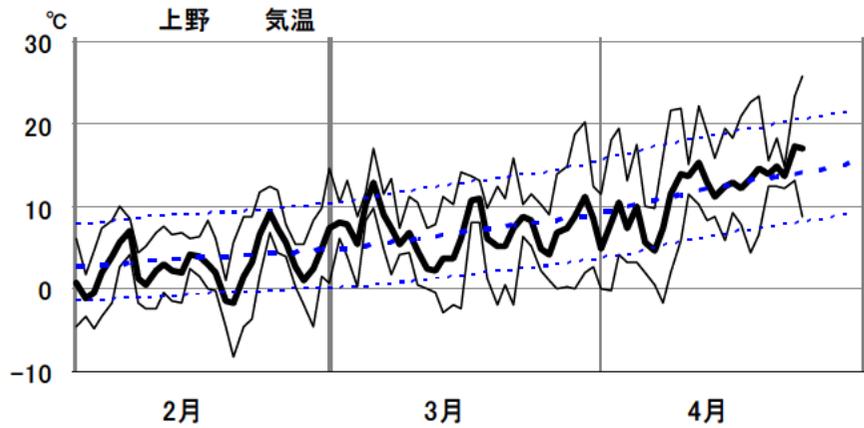
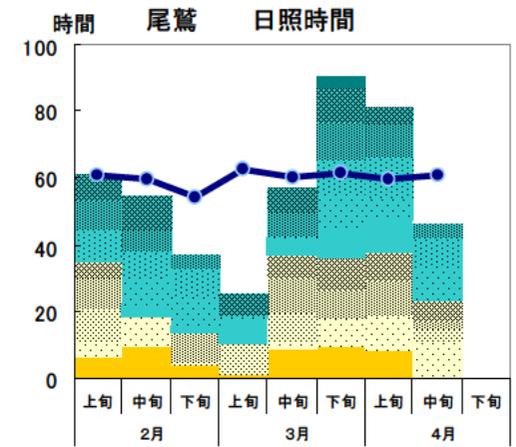
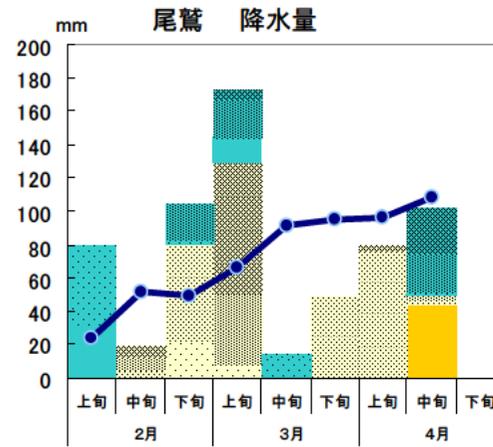
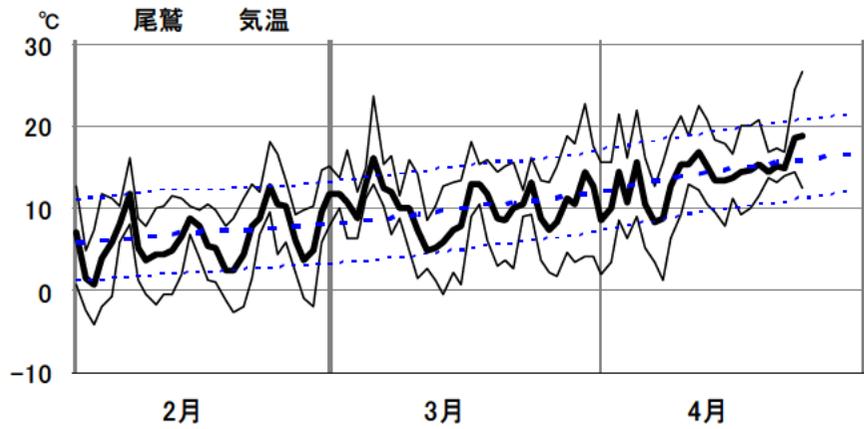
予報期間 4月26日～5月2日

向こう一週間は、気圧の谷の影響で雲が広がりやすく、期間のはじめに雨の降る日があるでしょう。中頃は高気圧に覆われて晴れる日がある見込みです。

最高気温と最低気温はともに、平年並か平年より高いでしょう。  
降水量は平年並の見込みです。

### 気象の日別推移（気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成）（4月24日まで）





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- - - 平年平均
- - - 平年最高
- - - 平年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬年平値

13

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬年平値

## 7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

### 1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

### 2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 第1回 4月26日(今回) | 第2回 5月24日(木)  |
| 第3回 6月21日(木)  | 第4回 7月19日(木)  |
| 第5回 8月23日(木)  | 第6回 10月18日(木) |
| 第7回 3月22日(金)  |               |

### 3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

### 4) 本冊子の利用の手引き書 **NEW**

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

[http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h24yohotebiki\\_.pdf](http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h24yohotebiki_.pdf)

### 5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

### 6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)